**２０２２年　春の拡大月間総括**

**１．春の拡大の提起および経過報告**

今年度の春の拡大月間は、拡大目標を組織人員の３.５％１６４名とし、３月を準備期間、３月２５日から５月末までを本番行動として、拡大統一行動日は４月８日から全８次１３日間での取り組みを提起しました。また、「拡大月間こそ組織強化期間」ととらえ取り組み方に重点を置いた拡大月間とするため、「拡大月間３目標」に継続して取り組んでいくことを確認し、以下の３つの目標に取り組むとし、支部全体で実増につながる拡大を目指し、節目標の追求と共に提起しました。

【分会四役以外の行動参加者：分会組織人員の２.５％】

【対象者・事業所訪問：分会組織人員の７％】

【組合員連絡(訪問)行動：分会組織人員の６０％以上】

春の拡大月間の経過については、４月１７日の支部大会までに５２名の成果もあり、好調なスタートダッシュを切ることが出来ました。その後も順調に成果を積み重ね、４月２４日には下北沢分会がいち早く目標達成し、月間の折り返しである４月３０日時点で８２名と節目標である目標の５０％近くまで到達して大型連休を迎えました。連休明けの拡大推進委員会、５月１０日の組織部会で改めて支部役員、分会組織部長全員で目標達成の意思統一を図り、拡大行動の強化に取り組みました。連休明けは動きが停滞気味になりましたが、第６次行動で三軒茶屋分会、駒つなぎ分会、松沢分会が目標達成すると各分会でも動きを取り戻し、第７次行動を終えると目標達成分会が増えていきました。しかし、一部の分会では苦戦を強いられ春の拡大月間最終盤まで目標達成に向けた行動が続けられました。５月３０日の拡大最終盤で支部目標達成と全分会目標達成となりました。この結果はコロナ禍という厳しい情勢が続く中で各分会役員の多大なる努力の結果であり、目標達成を諦めず、最後までやりきった結果の賜物であります。改めて準備行動からの３カ月間、ご奮闘いただきまして誠にありがとうございました。

**（１）節達成状況**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 節30％ | 達成分会 | 節50％ | 達成分会 | 節70％ | 達成分会 | 節100％ | 達成分会 |
| **2022年** | 31.7％ | **１３分会** | 50.6％ | **10分会** | 64.6％ | **9分会** | 101.8％ | **16分会** |
| **2021年** | 26.9％ | **4分会** | 34.1％ | **4分会** | 55.1％ | **4分会** | 110.8％ | **16分会** |
| **2020年** | 22.7％ | **6分会** | 33.0％ | **4分会** | 37.1％ | **0分会** | 59.3％ | **5分会** |
| **2019年** | 29.4％ | **4分会** | 42.1％ | **2分会** | 68.0％ | **3分会** | 108.1％ | **17分会** |
| **2018年** | 40.2％ | **10分会** | 58.2％ | **8分会** | 74.1％ | **7分会** | 103.4％ | **18分会** |
| **2017年** | 57.7％ | **18分会** | 79.6％ | **14分会** | 92.0％ | **10分会** | 117.4％ | **17分会** |
| **2016年** | 57.5％ | **13分会** | 67.0％ | **11分会** | 95.5％ | **11分会** | 115.0％ | **18分会** |

　　※2016年～2019年までは節目標は40％、60％、80％、100％で設定

節目標の達成状況は上記の表の通りです。好調なスタートダッシュを切ることに成功した今年度は第１節、第２節については２０１８年以来、４年ぶりに目標達成することができました。その結果多くの分会で第２節についても達成できる見込みがイメージできたことが分会の動きが鈍らずに継続できたことにつながった結果であると考えられます。連休明けの第３節では若干遅れましたが、それでも９分会と多くの分会が節目標達成できており、月間目標から大きく離れることがなかったことが全分会目標達成と支部目標達成につながったと考えられます。また今年度は春の月間目標の上限を設定したことも節目標達成分会が増えた要因と言えます。昨年よりも目標達成から離れることなく、モチベーションを保ちながら月間目標に取り組めたことがこの春の月間の成果と言えます。次年度以降も、３月の準備行動に対する意識を向上させ、積極的な取り組みを強めて、４月の加入を増やし、節目標を順々にクリアしていくような取り組み継続していく必要があります。

**（２）行動状況**

緊急事態宣言が解け、コロナ感染対策が続く中での拡大月間となりましたが、ほとんどの分会で拡大行動日を設定し、拡大センター行動に取り組みました。昨年よりも夜間行動日の設定分会、設定回数も増えました。一部の分会では慎重な対応をとって拡大行動日を設定しないところもありましたが、コロナ禍でも「できない」「やれない」ということとせず、「できること」をひとつずつ取り組めるよう促しました。

拡大センター行動回数についてはコロナ前の回数にまで戻りつつありますが、延べ参加人数についてはまで以前の参加人数まで取り戻すまでには至っていません。しかしながら、延べ参加者数は７０名近くも増加しており、行動日に１０名近い行動参加者を集める分会は昨年よりも増えており、拡大行動を盛り上げ活気ある行動にしようと奮闘した分会もありました。行動日が少ない分会や行動参加者がいつも同じ顔ぶれの分会では、対象者不足に陥ることもあり、分会の行動に盛り上がりをつくることができず、「目標達成が困難である」という意識になってしまったこともありました。新しい行動参加者の獲得や新任役員からの情報、参加といった成功の積み重ねが対象者の発掘や拡大成果に結び付き、拡大運動と組織強化につながります。一部の分会役員や分会四役のみの行動・取り組みとならないように、行動量と行動参加者を増やすことが今後とも課題と言えます。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 準備行動 | | 昼間行動 | | 拡大センター  行動回数 | 延べ  参加人数 | 拡大センター  行動回数平均 | 拡大センター行動  1回平均参加者数 |
| 2022年 |  |  | 6分会 | 20回 | 78回 | 518人 | 4.9回 | 5.3人 |
| 2021年 | １分会 | １回 | 6分会 | 18回 | 71回 | 442人 | 4.4回 | 4.6人 |
| 2020年 | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― |
| 2019年 | 2分会 | 4回 | 6分会 | 20回 | 77回 | 614人 | 4.5回 | 8.0人 |
| 2018年 | 0分会 | 0回 | 6分会 | 20回 | 97回 | 736人 | 5.4回 | 7.5人 |
| 2017年 | 2分会 | 2回 | 6分会 | 16回 | 75回 | 582人 | 4.2回 | 7.7人 |
| 2016年 | 1分会 | 1回 | 6分会 | 17回 | 66回 | 531人 | 3.7回 | 8.0人 |

**（３）事業所からの拡大**

建設業における社会保険加入の厳格化により、事業所の加入は厚生年金と土建国保のセット加入となり、組合定着率が高い加入と見込めるため、組織実増を目指すには事業所での組合加入の拡大も重要です。この春の月間でも国保同時加入６５名のうち８割を超える５３名が適用除外での厚生年金とセット加入であることから、国保加入で定着率の高い拡大をする上では、事業所への取り組みは無視できません。さらに、事業所の加入は下記の表の通り、拡大成果の約４０％を占めていることからも意識的に取り組むこと、組合活動に理解をしてもらい協力してもらうことは組織強化の面から見ても重要であると言えます。これまでと同様に準備行動から意識を強め、事業所訪問行動に取り組んでいく必要があります。訪問行動には、書記局も連携して動くことが求められるとともに分会では、分会の活動に理解と協力を求めるには分会役員や組合員同士の顔の見える関係づくりをしていく必要があるため、こぶしの会や女性の会といった組合員の協力のもと分会一丸となった取り組みへとつなげていかなければなりません。

支部で行った労災更新時の事業所アンケートは３１１社より回収ができ、事業所の実態把握に努め、対話を重ねて事業所の要求をくみ取り、実現していくことで組合活動への理解を求め、拡大運動と拡大行動への理解と協力につなげていく必要があります。書記局での訪問行動はこの月間で２０日間の訪問行動で２２０社を超える訪問を実施しました。まだまだ不十分な部分もあるため、秋の月間には更なる強化が必要です。今年の１月に加入した新設事業所で入社が重なり、分会の拡大達成に大きく貢献したこともあることから未加入事業所や新設事業所などの新規事業所へのアプローチは継続的に行っていきます。

**・事業所拡大**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 烏山北沢ブロック | | 世田谷ブロック | | 玉川ブロック | | 砧ブロック | | 合計 | |
| 2022年 | 16事業所 | 20名 | 11事業所 | 12名 | 7事業所 | 9名 | 12事業所 | 21名 | 46事業所 | 62名 |
| 2021年 | 19事業所 | 24名 | 10事業所 | 16名 | 8事業所 | 9名 | 11事業所 | 19名 | 48事業所 | 68名 |
| 2020年 | 15事業所 | 20名 | 15事業所 | 21名 | 8事業所 | 10名 | 11事業所 | 14名 | 55事業所 | 74名 |
| 2019年 | 13事業所 | 20名 | 16事業所 | 25名 | 14事業所 | 18名 | 21事業所 | 23名 | 64事業所 | 86名 |
| 2018年 | 20事業所 | 23名 | 23事業所 | 47名 | 12事業所 | 18名 | 16事業所 | 25名 | 71事業所 | 113名 |
| 2017年 | 28事業所 | 53名 | 21事業所 | 44名 | 14事業所 | 29名 | 11事業所 | 21名 | 74事業所 | 147名 |
| 2016年 | 12事業所 | 22名 | 18事業所 | 37名 | 13事業所 | 16名 | 23事業所 | 42名 | 66事業所 | 117名 |
| **・うち新規事業所** | | | |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 烏山北沢ブロック | | 世田谷ブロック | | 玉川ブロック | | 砧ブロック | | 合計 | |
| 2022年 | 2事業所 | 2名 | 1事業所 | 1名 | 1事業所 | 1名 | 0事業所 | 0名 | 4事業所 | 4名 |
| 2021年 | 3事業所 | 3名 | 2事業所 | 3名 | 2事業所 | 3名 | 0事業所 | 0名 | 7事業所 | 9名 |
| 2020年 | 2事業所 | 2名 | 4事業所 | 6名 | 1事業所 | 1名 | 1事業所 | 1名 | 8事業所 | 10名 |
| 2019年 | 1事業所 | 2名 | 3事業所 | 5名 | 1事業所 | 1名 | 0事業所 | 0名 | 5事業所 | 8名 |
| 2018年 | 1事業所 | 1名 | 2事業所 | 5名 | 4事業所 | 4名 | 0事業所 | 0名 | 7事業所 | 10名 |
| 2017年 | 3事業所 | 5名 | 3事業所 | 6名 | 2事業所 | 8名 | 0事業所 | 0名 | 8事業所 | 19名 |
| 2016年 | 2事業所 | 7名 | 2事業所 | 4名 | 2事業所 | 4名 | 0事業所 | 0名 | 6事業所 | 15名 |

**（４）組合のみ加入**

今年の春の拡大月間は、昨年と同じ目標３.５％としましたが月間目標において上限を設定しました。これにより昨年より目標が下がった分会もあります。しかしながら、組合のみ加入の比率は昨年と同じ比率でした。組合のみ加入者は比較的、定着率が低くなってしまうことから、組合業務の利用や群会議参加から組合とのつながりを強めていくことが必要となります。定着率の高い拡大は国保加入目的や一人親方労災や事業主特別加入労災、雇用保険の事務委託といった加入を増やすことで組合業務を利用するころで安易に脱退することができない加入であることから、組合の制度をいかに宣伝、周知して組合制度を活用してもらうかという課題と合わさっています。

分会の中でも一人でも多く協力を仰ぎ、声掛けを広げ、外注や一人親方といった形態で働く仲間へ労災加入や土建国保の魅力を伝えられるかという運動へ広げていかなければ定着率の高い拡大を増やすことはできません。同じ現場で働く仲間やいつも応援を頼んでいる外注職人さんが労災に入っているかというのは、やはり現役世代の仲間でないと分からない部分もあり、一番忙しい世代の仲間だからこそ持つつながりを組合に結集させていくことも組織拡大、組織強化に求められます。

対象者の少ない現状の中で定着型拡大を増やしていく取り組みと合わせて、脱退連絡者には理由を確認し、説得に努め、分会と協力して脱退阻止の取り組みにも引き続き注力していきます。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 拡大数 | 国保同時加入 | 組合のみ拡大数 | 組合のみ拡大割合 |
| 2022年 | 16７名 | 65名 | 102名 | 61.1％ |
| 2021年 | 185名 | 78名 | 107名 | 57.8％ |
| 2020年 | 115名 | 76名 | 39名 | 33.9％ |
| 2019年 | 214名 | 86名 | 128名 | 59.8％ |
| 2018年 | 208名 | 101名 | 107名 | 51.4％ |
| 2017年 | 236名 | 161名 | 75名 | 31.7％ |
| 2016年 | 206名 | 127名 | 79名 | 38.3％ |

**（５）拡大月間３目標の取り組み結果**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **四役以外の行動参加者：組織人員の2．5％** | | |  | **対象者・対象事業所訪問件数：組織人員の７％** | | |
|  | 平均 | 達成分会 |  |  | 平均 | 達成分会 |
| 2022年 | ３．２名 | **駒つなぎ、用賀、** |  | 2022年 | １０．０件 | **弦巻、三軒茶屋、駒つなぎ、用賀、喜多見** |
| 2021年 | ３．１名 | 駒つなぎ、用賀、上深、喜多見 |  | 2021年 | １２．０件 | 弦巻、三軒茶屋、用賀 |
| 2020年 | ― | ― |  | 2020年 | ― | ― |
| 2019年 | ５．４名 | 松沢、三軒茶屋、下馬、  用賀、上深、砧 |  | 2019年 | １０．８件 | 三軒茶屋、下馬、用賀、喜多見 |
| 2018年 | ４．９名 | 松沢、野上、用賀、砧 |  | 2018年 | １０．９件 | 三軒茶屋、下馬、砧 |
| 2017年 | ４．３名 | 用賀、上野毛、玉川 |  | 2017年 | １２．７件 | 三軒茶屋、用賀、喜多見 |
| 2016年 | ２．８名 | なし |  | 2016年 | ７．１件 | 玉川、喜多見 |
| **分会内組合員連絡（訪問）：組織人員の６０％** | | |
|  | 平均 | 達成分会 |
| 2022年 | ３６．４％ | **上祖師谷、弦巻、三軒茶屋、駒つなぎ、用賀、上深、喜多見** |
| 2021年 | ５９．２％ | 上祖師谷、松沢、けやき、弦巻、  三軒茶屋、駒つなぎ、用賀、上深、  喜多見、 |
| 2020年 | － | ― |
| 2019年 | ４９．１％ | 弦巻、三軒茶屋、野上、下馬、  用賀、上深、喜多見、砧 |
| 2018年 | ５９．７％ | 野上、下馬、用賀、新深沢、  喜多見、砧 |
| 2017年 | ４７．２％ | 弦巻、用賀、上野毛、新深沢、  千歳 |
| 2016年 | ５４．７％ | 三軒茶屋 |

この春の拡大月間においても「拡大月間の３目標」の取り組みを提起し、取り組みを進めました。　結果については、駒つなぎ分会と用賀分会が３目標すべてを達成しました。

（２）行動状況で触れたとおり、四役以外の行動参加者の平均が昨年とほぼ同数であることから、行動参加者が同じ顔ぶれで分会役員のみになってしまっていることが３目標の取り組みからみてもわかります。対象者を増やすにも組織強化を目指すにしても四役以外の行動参加者を増やす取り組みは必要であります。**上祖師谷分会**では、昨年から新任役員の登用が進み、今年度は新分会長を迎え、新しい行動参加者を獲得することができました。**上深分会**では男性組合員の育児休業による国保料免除の制度を利用した４０代組合員の拡大行動日に参加してもらい、役員との顔合わせや住宅デーの協力をお願いするといった特徴的な取り組みがありました。

また、対象者訪問の達成分会は昨年よりも増えたものの、平均訪問件数が下がっていることから分会の実行動が少なくなっていることは明らかです。コロナ禍の中で組合活動が活発にできなかったこの２年間を取り戻すにも、組合に加入したい人を待っているだけでは組織実増は勝ち取れず、積極的に実行動に取り組むことで組合の仲間とのつながりを強める実行動の取り組みは欠かせません。**烏山分会では**分会独自のDMを作成し、チラシ折りなどの出番づくりを行う、**喜多見分会では**女性組合員の協力のもと、独自に日曜行動を設定して電話掛け行動を行う・昼間行動と夜間行動を合わせ１３回の行動で積極的な実行動の取り組み、**用賀分会**は分会長（５０代）と青年層組合員（２０代）が平日昼間行動で事業所訪問を行うなど現役世代の活躍があったという特徴的な取り組みもありました。

**（６）新聞折込チラシによる組合周知宣伝行動**

　この春の月間では、分会名入りの新聞折り込みチラシを実施しました。各分会で配布部数、配布のエリア、配布時期を決めて支部定期大会までに全分会で実施することを目指しました。しかしながら、３分会で大会までの実施ができず、大会明けの実施となりました。チラシは全分会で１２万６５００部の作成（８０万６３９０円）を行い、折込補助として３９万７２３０円を補助しました。結果についてはこの月間でのチラシを持っての新加入はなく、「折込チラシを見て」という問い合わせについても成果は得られませんでした。成果と掛けた費用から見るとこの新たな試みは改善すべき点が多くありました。

まず、初期提案での議論の浅さが課題として残りました。部数の上限や折込回数についても全分会で共通認識ができていなかった部分もあり、統一感のある運動にできなかったことが挙げられます。また、現在の世田谷区内の新聞購読率は約４６万世帯に対して全紙合わせて179,300部の発行と到達率は３７．５％と購読者は少なく、反響率についても一般的に0.01％から0.3％といわれていることからため、効果についてはあまり期待できないということ。折込チラシの効果を十分に生かすには、中長期的な継続性が必要であり、その効果を得られるには時間と費用がかかるということ。チラシ紙面が目につくようなキャッチフレーズや紙面内容・デザインであったかということ。という３点も含めて検討し、取り組むべきでありました。反省点、課題が多く残る取り組みになってしまいました。

一方で「折込チラシによる成果があったか分からないがコロナ禍での周知行動の取り組みとしては良かったのでは」、「ポスティングがしにくいマンションなどへの宣伝行動という部分においては行動補助につながった」という分会代表者会議での意見もあり、ポスティングに対する組合員への負担軽減という点では、ある程度の評価もありました。

今後も継続的に実施し取り組んでいくかという点においては十分な検討が必要であり、紙面内容デザインに関しては教育宣伝部との協力が必要であることや中長期的な取り組みとなれば、支部としてエリアや配布時期などを計画的な対策を立てた上で提起していく必要があります。拡大月間における組合員負担軽減を図りながら組合の存在や魅力を広く伝える方法については引き続き別の対策を検討する必要があります。

**２．評価および課題**

この春の月間も分会、支部役員と書記局による一致団結の取り組みにより、全分会目標達成、支部目標達成とすることができました。新型コロナウィルスでの緊急事態宣言が解除された中での拡大月間となり、昨年よりも拡大センターを開設し、行動日を設定した分会は増えました。延べ参加人数においても昨年よりも７０名近く増えています。コロナ前の組合活動を維持、取り戻そうと拡大運動に取り組み、１０名近い参加者で拡大行動を盛り上げた分会もあり、各分会の意識も若干の変化が見られました。

この春の月間での特徴は、**『節目標ペースでの成果の積み上げ』**と**『分会独自の行動設定』**の２点が挙げられます。前述した通り、この春の拡大月間においては拡大目標の上限（１１件）を設定しました。これにより拡大目標達成から遠のくことがなく、節目標を目指すことで目標達成に向けたモチベーションを高く保ちながら拡大月間に取り組めました。このことが全分会目標達成に大きく影響を与えました。ここ数年に比べ、好調なスタートダッシュをきれたことも拡大月間成功の大きな要因と言えます。多くの分会で第１回の節目標を達成できたことで第２節、第３節と達成までの道筋が明確となり、明るい雰囲気のまま達成まで前向きな体制で取り組むことができました。昨年は４月の加入が少なく、５月に加入が偏っていましたが、今年は節目標ペースでの積み重ねにより、４月と５月がほぼ同数の成果とすることができました。

**・２０１６年以降の加入件数の比較**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月成果 | ５月成果 | 月間累計 | 目標 | 達成分会 |
| 2022年 | ８３ | ８４ | １６７ | １６４ | １６ |
| 2021年 | ５７ | １２８ | １８５ | １６７ | １６ |
| 2020年 | ６０ | ５５ | １１５ | １９４ | ５ |
| 2019年 | ８２ | １３２ | ２１４ | １９７ | １７ |
| 2018年 | １０７ | １０１ | ２０８ | ２０１ | １８ |
| 2017年 | １２３ | １１３ | ２３６ | ２０１ | １７ |
| 2016年 | １０３ | １０３ | ２０６ | １７９ | １８ |

分会独自の行動設定では**烏山分会**独自のDMを作成で出番づくり、**喜多見分会**の独自の日曜行動と１３回という積極的な実行動の取り組み**、用賀分会**の現役世代組合員による昼間行動といった特徴的な取り組みが分会の拡大行動を盛り上げることにつながり、「みんなでやろう」という意識に変わっていきます。一部の役員のみでは、月間の途中であきらめかけてしまうこともあるので、**上祖師谷分会**や**上深分会**の新たな行動参加者の獲得といった、取り組みの具体化はとても重要です。こういった分会独自の取り組みは分会の自主的な運営を確保するとともに他分会の取り組みへも波及します。各分会が工夫を凝らし拡大行動を展開させていき、各分会で共有し、さらにブラシュアップしていくことで先進的な分会、支部へと発展し、組合としての魅力がますます増してくることにつながります。支部での分会独自行動を推進ニュース等で発信し、ともに奮闘する仲間を勇気づけられるようにフォロー体制を整えていきます。

課題としては、やはり**①準備行動の取り組みの強化、②行動参加者を増やす、③行動量を増やす**という３点が挙げられます。この課題はここ数年の課題であります。新しい仲間の行動参加は分会役員の背中を押し、分会の拡大行動の雰囲気を大きく変えます。また、新しい仲間からの声掛けはこれまで届かなかった声を届けることができるということであり、新たな対象者の発掘の機会が眠っています。拡大センターに来ないようであれば訪問して、対話が図れるように工夫などして実行動に取り組み、行動量を増やすことも重要です。昼間行動や準備行動などはこぶしの会や女性の会と協力しながら、現役世代の組合員には同じ現場で働く仲間に組合の話題を挙げてもらい、夜間の拡大センター行動でそれぞれの取り組みの報告をしてもらい情報共有するなど、ただ集まっているだけという課題を克服するべく、行動参加者の出番づくりをして、拡大行動を盛り上げて分会全体としての取り組みにしていく必要があります。

結果としては全分会で目標達成、支部目標達成をすることができました。また、年間の節目標である６.０％到達分会は上北沢分会、下北沢分会、玉川分会、砧分会の４分会がありました。秋の月間でも全分会が目標達成に向かって、行動参加者や役員後継者の発掘といった組織強化に取り組みながら顔の見える関係づくりを意識した活動にしていけるよう、世田谷支部の組織拡大運動を進めていきます。